

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 105

令和3年(2021年)

令和3年度日本庭園学会
全国大会開催にあたって

発行 日本庭園学会(会長 大澤 伸啓)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学 地域環境科学部
造園科学科 庭園技法材料科学研究室
TEL(03)-5477-2428(栗野 隆 理事)
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>

令和3年度日本庭園学会全国大会開催にあたって

過日の学会ニュースで、今年度の全国大会を福井で行う旨、お知らせいたしました。しかしながら、現在、新型コロナウイルス変異株の猛威が続いており、緊急事態宣言が発令され、移動の自由も制限されています。このようなことから、過日の理事会において、福井の全国大会を次年度に延期し、下記のリモート大会を開催することとしました。

日本庭園が置かれている状況は、コロナ禍の中で大きな変更が迫られています。本学会員は、全国各地で日本庭園の維持・管理・運営に携わっており、日々、その変化を感じています。本学会も設立から30周年を迎え、社会へ向かってその意義を発信していく必要があります。このようなことから、令和3年度の全国大会において、「コロナ禍の日本庭園：未来への展望～保存整備・維持管理・活用運営の課題」と題して公開オンライン座談会を実施することにしました。

多くの皆様が積極的に参加されますことを願っております。

日本庭園学会長 大澤 伸啓

大会の案内

令和3年度の全国大会（総会、研究発表会、公開オンライン座談会）を、令和3年6月26日（土）に、ZOOMを利用してオンライン（リモート）で開催いたします。

大会への参加をご希望の方は、勝手ながら事前に、ZOOMを利用できるパソコン等の環境をお整えくださいますようお願いいたします。なお、公開オンライン座談会については、会員以外の方も参加自由（事前登録制無償）といたします。

関心をお持ちの方にぜひ登録をお勧めいただき、多くの方々が参加されることを期待しています。

記

◆日程

令和3年6月26日（土）9：00～15：30

◆内容

総会、研究発表会、公開オンライン座談会

◆プログラム

8：45～ Web会議システム(ZOOM)の開放
9：00～9：05 開会挨拶
9：05～9：35 総会
9：35～9：55 1. 京都市指定名勝極楽寺庭園の
定期修理と竣工後の経過
今江 秀史(京都市)

- 9:55 ~ 10:15 2. もう一つの“浄土系”庭園～観音
浄土補陀落の見立てと岩崖・
窟そして池～
久保 智康
(叡山学院、元京都国立博物館)
- 10:15 ~ 10:35 3. 上野国赤岩山光恩寺の浄土庭園と
前方後円墳
足立 佳代(立正大学博物館)
- 10:35 ~ 10:55 4. 特別史跡名護屋城跡並びに陣跡の
茶庭遺構にみる飛石の形態的特徴
正田 実知彦
(九州大学大学院芸術工学府、福岡
県人づくり・県民生活部文化振興課)
- 10:55 ~ 11:00 休憩
- 11:00 ~ 11:20 5. 城下町の水路網と庭園群の現状と
説明板の役割
—保存につなげるための方策—
佐々木 邦博(信州大学)
- 11:20 ~ 11:40 6. 樹木伐採のススメー史跡・名勝に
おける植栽管理の重要性—
大澤 伸啓(立正大学)
- 11:40 ~ 12:00 7. 文化資本論の視座による勤労者の
日本庭園認知・訪問実績
森 泰規
(株式会社博報堂ブランド・イノベー
ションデザイン局)
- 12:00 ~ 12:20 8. 北米日本庭園の130年
—NAJGA Webinar2021
シリーズ全14回のプレゼンテー
ションを通じた考察—
鈴木 誠
(東京農業大学グリーンアカデミー)
- 12:20 ~ 13:15 昼食休憩
- 13:15 ~ Web 会議システム(ZOOM)の開放
- 13:30 ~ 15:30 公開オンライン座談会
- 15:30 閉会挨拶

※理事会は8:15～8:45に行います。

※研究発表は発表15分、質疑5分です。

◆大会参加の申込み

大会参加の申込みは事前に下記までお願いいたします。お申込みの際には、①氏名、②会員・非会員の別、③参加プログラム(総会・研究発表会・公開オンライン座談会)を記載ください。電話・郵送でのお申込みには応じられませんのでご注意願います。

申込み期限：令和3年6月19日(金)

メール：w.fujinohana@gmail.com(藤田若菜)

◆参加費

学会員：無料 非会員：500円(学生は無料)

※公開オンライン座談会のみ参加は無料

<参加費振込先(郵便振替)>

- ・加入者名：日本庭園学会
- ・口座番号：00140 - 3 - 659842
- ・振込期限：令和3年6月19日(金)

◆大会資料・研究発表要旨集

大会への参加をお申込みいただいた正会員、参加費を入金いただいた方には、ご指定のメールアドレスにPDF形式の資料集を閲覧するためのパスワードをお知らせします。

◆研究発表会 概要

1. 京都市指定名勝極楽寺庭園の定期修理と竣工後の経過

今江 秀史(京都市)

京都市指定名勝の極楽寺庭園(西京区)は、平成20年から21年度にかけて定期修理(2～30年周期で行われる抜本的な修理)により、主に築山と園路に対する修理を行った。その修理の考え方と工程、さらに竣工後の経過を概説する。

2. もう一つの“浄土系”庭園

—観音浄土補陀落の見立てと岩崖・窟そして池—

久保 智康

(叡山学院・元京都国立博物館)

古代・中世における寺院庭園には、築造に明確な仏教思想を読み取ることのできる事例が少なからずある。とくに岩崖上や窟内の仏堂に観音を祀り、手前に池を設けるといふ営為は、観音浄土たる補陀落山を見立て、密教観想や観音懺法などの場としたと考える。その系譜は石山寺や那谷寺といった奈良・平安時代創建の密教寺院にはじまり、首羅山遺跡や旧等妙寺跡などの山寺遺跡、夢窓疎石築庭の永保寺庭園、さらに一乗谷湯殿跡庭園といった戦国城館内の築庭にまで及んだ。

3. 上野国赤岩山光恩寺の浄土庭園と前方後円墳

足立 佳代
(立正大学博物館)

光恩寺境内には堂山古墳と称される前方後円墳があり、その南側に弁天池と阿弥陀堂がある。境内には中世石造物も多数保存されており、寺伝や地域の歴史などから、佐貫荘を本貫地とする佐貫氏が、古墳を利用して浄土庭園を造営し阿弥陀如来を祀ったものとする。太田市別所にある円福寺も同様の例であり、平地において前方後円墳が浄土庭園として利用された例として紹介したい。

4. 特別史跡名護屋城跡並びに陣跡の茶庭遺構にみる飛石の形態的特徴

正田 実知彦
(九州大学大学院芸術工学府、福岡県人づくり
・県民生活部文化振興課)

本研究では、安土・桃山時代末期に作庭、利用された唯一の事例である名護屋城跡並びに陣跡の飛石を計測し、その形態的特徴を明らかにした。当該期の茶庭における飛石については、近世以降の茶書などに各茶人の特徴などが記されているのみであり、石の大きさや重心間距離など、具体的な数値は分かっていなかった。今後は、今回得られた成果と、江戸時代の茶庭及び回遊式庭園における飛石の形態との比較検討を行うことで、安土・桃山時代末期の茶庭意匠の特徴や作庭技術の継承と断絶に関する示唆が得られ、安土・桃山時代末期の茶庭が後代に果たした意匠的役割を明らかにできるものとする。

5. 城下町の水路網と庭園群の現状と説明板の役割 —保存につなげるための方策—

佐々木 邦博 (信州大学)

城下町には江戸時代から築かれた水路網や庭園群が存続している場合があるが、いずれも失われつつあるのが現状である。保存していくためには、それらの存在と価値を市民や観光客に知っていただくことが重要である。必要なことの一つに、説明板がある。人々が町を歩き水路網や庭園群に気づく、そしてその価値を理解するための重要な手段となる。本研究は水路網と庭園群の現状と、街中に設置されている説明板の現状とを考察する。

6. 樹木伐採のススメ

—史跡・名勝における植栽管理の重要性—

大澤 伸啓 (立正大学)

史跡・名勝における植栽は、一度整備されると毎年、通りいっぺんの管理が行われている。その史跡・名勝の本質的な価値は何なのか、それを損ねるような樹木管理が行われていないか、常に検証する必要がある。本発表が、全国で史跡・名勝の管理を行う人達の参考になることを願う。

7. 文化資本論の視座による勤労者の日本庭園認知・訪問実績

森 泰規
(株式会社博報堂ブランド・イノベーションデザイン局)

文化資本論には大きく二つの潮流がある。いずれも学歴や文化財、趣味嗜好などが所属階層を決定するという方向性をとるが、そのうち趣味は階層を弁別するため階層ごとに選ぶ趣味が異なるというブルデュー (1979=1990) と、階層が高いほどむしろ複数の趣味を雑食的に嗜むことが多いというピーターソン (1996) のそれに分化している。日本庭園への関心は日本の勤労者においていずれの方向に近いのか。昨 2020 年に実施した勤労者調査に対し追加解析を行った結果を報告する。

8. 北米日本庭園の 130 年

—NAJGA Webinar2021 シリーズ全 14 回の
プレゼンテーションを通じた考察—

鈴木 誠
(東京農業大学グリーンアカデミー)

北米日本庭園協会 (NAJGA) は、2011 年に設立準備会が発足し、2012 年に活動を開始した。その後の 10 年にわたる活動から、北米の日本庭園を開園年順に時代を画した庭園群に区分し、その歴史と現況紹介を通じて、130 年にわたる北米公共日本庭園の、これまでとこれからが展望された。国際交流基金が共催し 2021 年 2 月 19 日～5 月 20 日まで全 14 回。毎週 90 分～120 分程度、話題提供と質疑応答による事前登録制 (無料) オンライン Webinar。この企画の概要とその成果について報告する。

公開オンライン座談会 概要

■ テーマ

コロナ禍の日本庭園：未来への展望～保存整備・維持管理・活用運営の課題

昨今のコロナ禍の影響は、日本庭園界にも確実に及んでいます。しかしながら、飲食店やサービス業などと違って、その影響が世の中の話題になることは、ほとんどありません。一方、日本庭園学会は誕生の1992年から30年を迎えようとしています。

そこで今年の全国大会では、日本庭園文化の成熟しつつある中、このコロナ禍において、庭園を取り巻く社会の状況がどのように変化したかについて、会員の皆様を中心に広く一般の方々も交えた座談会として開催することに致しました。

はじめに、話題提供として「東京都民の文化財庭園：コロナ禍の影響」や「発掘された町と庭：一乗谷朝倉氏遺跡の現状」、「古都京都の庭：管理・運営への影響」などを話していただこうと思います。その後、会員の皆様、一般参加の皆様からもコロナ禍における様々な環境の変化について積極的な情報提供や、ご意見をいただければと思います。

この座談会を通して、日本の人々にとっての庭、そして、アフターコロナの生活と庭、現代の我々が直面する課題の正確な把握と、課題解決の方向性の共有ができればと考えています。

このオンライン座談会は、日本庭園学会が創立30周年記念を来年に迎え、学術と社会との関係を真に問う企画としました。初心に帰って、現今の日本の庭園を取り巻く状況から、未来を展望する座談会として企画しています。コロナ禍がグローバル化していますが、日本庭園も世界中の人々に理解され、愛されています。

多くの人に愛される日本庭園。堅苦しいものではなく、気軽に意見交換ができればと思います。皆様、ふるってご参加ください。

■ 話題提供者

菊池 正芳（東京都公園協会）

藤田 若菜（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館）

今江 秀史（京都市）

■ 司会進行

鈴木 誠（東京農業大学グリーンアカデミー）

■ 大会参加の申込み

大会参加の申込みは事前に下記までお願いいたします。お申込みの際には、①氏名、②会員・非会員の別、③参加プログラム（総会・研究発表会・公開オンライン座談会）を記載ください。電話・郵送でのお申

込みには応じられませんのでご注意願います。

申込み期限：令和3年6月19日（金）

メール：w.fujinohana@gmail.com（藤田若菜）

※大会、公開オンライン座談会については、今後学会ホームページなどを通じて詳細な内容を紹介する予定です。

日本庭園学会ホームページでのご確認もよろしく願います。

日本庭園学会ホームページ URL
http://www.jgarden1992.jp

【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしく願います。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしく願います。

協力者：森本純代・荒川浩介（植彌加藤造園株式会社）

日本庭園学会広報委員会

今江秀史、加藤友規

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-1

京都芸術大学日本庭園研究センター 1 気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342

令和3年度

日本庭園学会全国大会

公開オンライン座談会



令和3年度の全国大会において、「コロナ禍の日本庭園：未来への展望～保存整備・維持管理・活用運営の課題」と題して公開オンライン座談会（ZOOM利用）を実施することにしました。

公開オンライン座談会：『コロナ禍の日本庭園：未来への展望～保存整備・維持管理・活用運営の課題』

昨今のコロナ禍の影響は、日本庭園界にも確実に及んでいます。しかしながら、飲食店やサービス業などと違って、その影響が世の中の話題になることは、ほとんどありません。一方、日本庭園学会は誕生の1992年から30年を迎えようとしています。

そこで今年の全国大会では、日本庭園文化の成熟しつつある中、このコロナ禍において、庭園を取り巻く社会の状況がどのように変化したかについて、会員の皆様を中心に広く一般の方々も交えて座談会として開催することに致しました。

はじめに、話題提供として「東京都民の文化財庭園：コロナ禍の影響」や「発掘された町と庭：一乗谷朝倉氏遺跡の現状」、「古都京都の庭：管理・運営への影響」などを話していただこうと思います。その後、会員の皆様、一般参加の皆様からもコロナ禍における様々な環境の変化について積極的な情報提供や、ご意見をいただければと思います。

この座談会を通して、日本の人々にとっての庭、そして、アフターコロナの生活と庭、現代の我々が直面する課題の正確な把握と、課題解決の方向性の共有ができればと考えています。

このオンライン座談会は、日本庭園学会が創立30周年記念を来年に迎え、学術と社会との関係を真に問う企画としました。初心に帰って、現今の日本の庭園を取り巻く状況から、未来を展望する座談会として企画しています。コロナ禍がグローバル化していますが、日本庭園も世界中の人々に理解され、愛されています。多くの人に愛される日本庭園。堅苦しいものではなく、気軽に意見交換ができればと思います。

皆様、ふるってご参加ください。

公開オンライン座談会

（事前登録制参加費無料）

■日時：

令和3年6月26日（土）

13：30～15：30

■申込：メール：

w.fujinohana@gmail.com

（藤田若菜）

■申込み期限：

令和3年6月19日（金）

■全国大会研究発表会

（9：30～12：30）の詳細

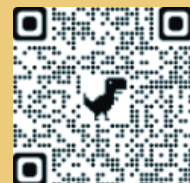
日本庭園学会ホームページ

の「学会ニュース」105号

<http://www.jgarden1992.jp>

に参加方法、プログラム

詳細があります。





日本庭園学会全国大会 公開オンライン座談会

- 話題提供者：菊池正芳（東京都公園協会）
藤田若菜（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館）
今江秀史（京都市）

- 司会進行：鈴木誠（東京農業大学グリーンアカデミー）



- 菊池正芳（東京都公園協会）：「東京都民の文化財：コロナ禍の影響」

東京都に初めて緊急事態宣言が出されたのが令和2年4月7日であった。その10日前の3月28日（日）から、人流抑制、密状態の回避の理由により都立庭園9カ所全てが閉鎖となった。その後、第三波に及んだ緊急事態宣言の影響で令和2年度の都立庭園の閉鎖期間は157日間となった。この間、入園者の安全管理上実施が困難であった大径木の樹木伐採や園路補修を実施したが、新たな動きとして、オンラインによる入園者の予約制度の導入や園内滞留者の把握のためのテレビカメラの設置といった、IT化を積極的に推進したことである。

← 令和3年（2021）年6月1日 小石川後楽園にて。



- 藤田若菜（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館）：「発掘された町と庭：一乗谷朝倉氏遺跡の現状」

戦国期の城下町の跡である特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡には、統計上では年間100万人を超える来訪者が訪れ、当史跡は日本有数の文化財であるとともに、福井県を代表する観光地でもある。昨年は大河ドラマに一乗谷とその庭園が登場し、コロナ禍でありながら県内外から多くの来訪者を迎えた。また、大河ドラマの終了後は客層が変化し、さらに人気のあるイベント内容にも変化がみられた。地方にある当史跡の現状を整理し、アフターコロナに向けた次の一手を皆さんと一緒に探してみたい。

← 令和3年（2021）年5月16日 コロナ禍の一乗谷朝倉氏遺跡 遺跡ウォークの開催。



- 今江秀史：「古都京都の庭：管理・運営への影響」

コロナ禍は、飲食業やサービス業、服飾業をはじめとして、様々な業態に影響を与えている。その中で庭園業が、どのような状況にあるかについて、京都市内の事例を報告する。京都市の中心部では、コロナ禍以前のインバウンド景気によって、ホテル等の建設が相次ぎ、それに関する仕事が現在も継続している。また、日々生長している植栽への対応のため、現時点では、すぐに庭園の仕事量が激減するというにはなっていない。むしろ、今後の企業、個人の経済状況が心配される。

← 名勝円山公園